

無雪期テントの基本

■テント内の整理



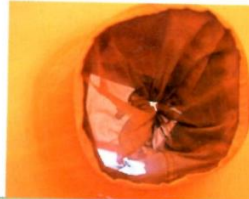
各自の荷物を入れて、テント室内が広く使えるように考慮しながら整理、配置する



テントマットの上に、クッションと断熱のための個人マット(半身用サイズがよい)を敷いて、各自の座る位置を決める



荷物を入れる前に、地面からの断熱と湿気を遮断するためのテントマットを敷く



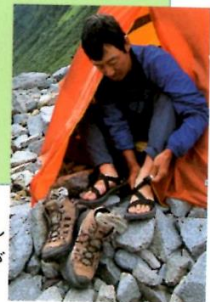
ベンチレーターは雨が吹き込まないかぎり全開にして換気する



本体裾のポケットは細かなものをちょっと入れておくのに便利だ



入口のメッシュは虫よけだけでなく、室内の換気のために重要



テント生活で便利なサンダル。いろいろな作業がやりやすくなる

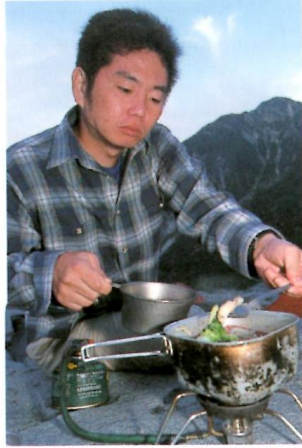
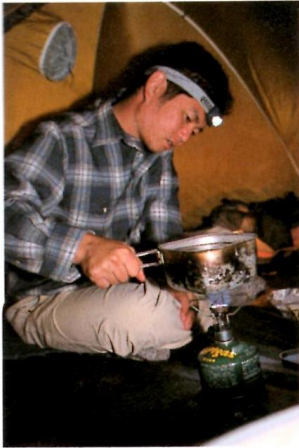
テントでの生活

テント内部は、1人当たり45〜50cm×2m程度の広さ。とても狭く感じるし、じょうずに使わないとすぐに時間がかり、無駄も多い。

テント内の整理、生活の方法は、パーティの数だけあるといってもよい。ザックの中は、人によっては不要なものは全部ザックに入れて外に出しツェルトをかけてしまうそうだ。ほとんどの場合はザックは空にして、不要なものは防水スタックバッグに入れる。テント内ではザックをマット代わりにお尻の下に敷く。これが狭いテントを広く使うコツとされているが、もっとよい方法もあるかもしれない。工夫してみよう。

外国に行くと驚くのが、欧米系の登山者は雨でも吹雪でも絶対に外でしか炊事をしないこと。たしかにテントには「テント内は火気厳禁」の表示がある。テント内でコンロを使い一酸化炭素中毒で事故を起こした例もあり、知っておきたい常識だ。

実際には、日本国内ではほとんどの人がテント内で炊事を行なう。狭いテント内の火気であり、取り扱いは十分に気をつけたい。炊事中に動くときは必ず声をかけ、コッヘルを押さえるのが常識だ。水こぼしに



外で炊事するのも楽しいが、とくに風よけが欲しいことが多い。テント内ではコンロとナベに注意を集中し、火傷しないように

炊事



担当が決まっても、実際の炊事は全員で分担したほうが楽しい。手が空いている人は、手伝うことを積極的に見つけよう

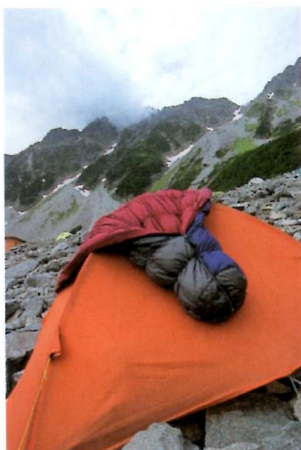


晴れた日はできるだけ外で過ごすほうが気持ちいい。テント前のスペースをうまく利用して炊事や食事をしてみよう



安眠のためには枕が大切。使わないウエアなどを利用して作る。登山靴を袋に入れて枕にすることも

枕もとには水とライトなどをシュラフから手の届く場所に置く



コンパクトで保温力の高い羽毛シュラフもぬれたら役に立たない。防水透湿素材のシュラフカバーを併用したい。湿ったら干そう

も注意しよう。

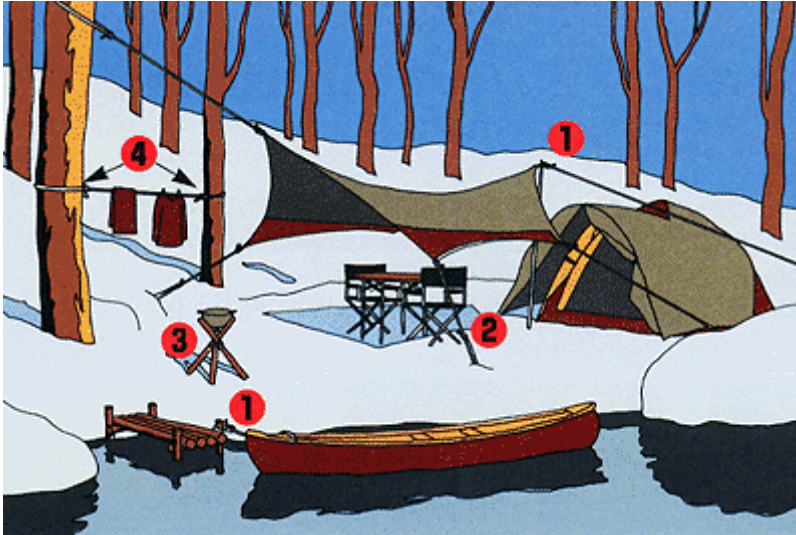
寝るときはすべて片づけて、防水スタッフバッグなどに入れる。互い違いに場所を決めて、マットを上半身に、下半身は空のザックを敷く。靴は各自で保管して袋に入れて枕にするとよい。荷物を入れたスタッフバッグは足もとに押し込み、枕元に水とヘッドランプ、ティッシュなどを置こう。あとは寝るだけだ。テントは真ん中の人がいちばん温かい。テント生活はわがままな人がひとりでもいると楽しくない。メンバー同士、互いの気遣いが快適なテント生活の基本だ。

テント 張り綱

ロープワーク<基本的なロープワークを覚えておけばキャンプで絶対トクをする。>

ロープワークは技術と経験が物を言う。しかし、その方法は決して難しいものではない。基本的なロープワークを覚えておくだけでアウトドアのさまざまな場面に応用できるのだ。これだけ知っておけば、絶対に役立つ5種類のロープワーク。

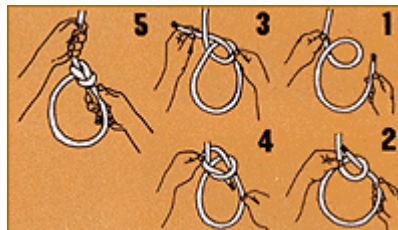
アウトドアではロープほど便利で有効な道具はない。タープやテントの設営には必ずロープが必要。荷物のパッキングにも便利だ。それぞれの状況に応じたロープワークを覚えておくだけで、キャンプの楽しみはさらに広がる。



- キャンプサイトで必要な基本的なロープワークは、
 - 1.タープのポールに輪を作って張り綱を掛ける「もやい結び」。カヌーを杭などに繋いでおくのにももやい結びは有効だ。
 - 2.タープの張り綱をペグに掛けて引く場合は、ロープの長さを自由に調節できる「自在結び」を使う。
 - 3.枝をまとめて結わき鍋を置く三脚を作るには「三脚しばり」がいい。
 - 4.2本の立木を利用しロープを掛けるには「ふた結び」で留める。
 - 5.の「まき結び」は汎用性も高くアウトドアで重宝する。

もやい結び

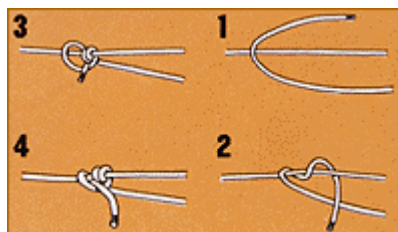
「もやう」とは、舟を繋ぐ時に言う言葉。杭に舟を繋ぐ時、輪が閉まらずに固定でき、しかも解きやすいことからその名になった。応用範囲が広く、アウトドアでは覚えて絶対に重宝する結び方だ。



- 1.ロープの途中に輪を作る。
- 2.ロープの端をその輪に通す。
- 3.そのまま元のロープの後ろ側に通す。
- 4.端を元のロープに巻くように再び端を輪に通す。
- 5.ロープの端と輪を持って引き、形を整え、テンションを掛ける。

自在結び

テントやタープを張る時に必ず使うのが、自在結びだ。張り綱をペグダウンする時に結び目を動かすことで、長さを自在に調節することができる。強いテンションが掛かるほどよく止まる。



- 1.タープのポールなどから引いてきたロープをペグに掛けて引き、
- 2.端を元のロープの外側から二度からめる。
- 3.ループの反対側で元のロープの上側から端を輪に通す。
- 4.最後に結び目を強く締めて完成。
- 5.結び目を持ってスライドする。